

(資料1) 令和3年度 磐田市立青城小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
【知】 自分の考えを深め表現する子	考えを深める授業の充実 ・課題を自分ごとにし、考えを導き出す発問の工夫 ・対話を大切に学習、対話タイム ・ICTの活用、ICTタイム	子どもたちは、課題を自分ごととして学びに向かっていたか。	B	○研修テーマを「自己を見つめ よりよく生きようとする子の育成」とし、道徳の授業を中心に授業改善に取り組んだ。1人1台端末を活用することで、可視化したり、考えを整理しやすくしたりした。それにより、課題を自分ごととし、学びを充実させる姿が見られた。 ※新型コロナウイルス感染症予防の観点から、密になる学習を控える場があった。学習の場が制限されても子どもたちに育みたい力を確実に伸ばしたい。対話タイムやホワイトボードの導入により改善を図った。今後も継続して工夫していきたい。 ○朝や帰りの会での発表の場、対話タイム、始業式、終業式等でのめあてや振り返りの発表等、子どもたちが表現する場を設け、指導を行った。自分の言葉で表現する力が伸びている。さらに豊かな表現ができるよう高めていきたい。	○様々な場で子どもの主体性を育てようとしている。子どもたちに対する目標が明確になっていてよい。子どもたちの様子を観察し、よさを伸ばす指導を継続してほしい。 ○対話タイム、つながり週間等の青城小ならではの活動によって成長が促されている。 ○様々な場で自分の考えを発表する場を設けていることは、とてもよい。これからも大事にしてほしい。 ○ICTを活用した授業が今後ますます増えると思う。児童も保護者も教師も大変であるが、1人1台端末による学習で、遅れていく子がないようにしてほしい。 ○振り返りを大切にすることで、感想やまとめで満足するだけでなく、改善につながっているのだと思う。
	学んだことを自分の力で表現する取組 ・授業のまとめや振り返りの時間の確保	子どもたちは、学んだことを自分の言葉で表現できたか。	A		
【徳】 自分も相手も大切にしながら進んで行動する子	心と心のキャッチボール ・あいさつ運動の推進 ・つながり週間の活用	子どもたちは、進んであいさつができたか。	A	○挨拶について振り返る場を設け、子ども一人一人の挨拶への意識を高めた。また、委員会活動や6年生のボランティア活動などから、挨拶を広める呼び掛けが生まれた。様々な取組の成果により、地域から子どもたちの挨拶の素晴らしさについて、お褒めをいただいた。子ども同士の中で挨拶を広げていこうという風土を今後も大切にしていきたい。 ※つながり週間を多く設けたことは、有効であった。次年度は、さらに子どもとつながる時間を増やすことで、安心して学べる環境を作り出したい。	○挨拶については、こども園と小学校からの積み上げがあり、中学校でも素晴らしい姿が見られる。 ○挨拶は最も重要な基盤となるので、大切にしてほしい。挨拶運動で大きな声で挨拶をしてくれる子どもたちから元気をもらっている。上の子が下の子の面倒を見る姿からも優しさが育っていることを感じる。 ○挨拶は伝わるのが大切である。子どもの挨拶を大人が受け止められるように、地域から発信していく必要がある。 ○コロナ禍の中で、今後いかに地域と学校がつながっていくかが重要になる。 ○学習も大切だが、人を思いやる心、素直なことが、とても重要である。ほめて育ててほしい。
		子どもたちは、職員とつながりを感じているか。	A		
	自己を見つめ強みを伸ばす取組 ・自己を振り返る時間の充実(もくせいタイム) ・ほめほめチャレンジの実施 ・道徳科や特別活動を核としたカリキュラムマネジメント	子どもたちは、自分を見つめ、自信をもって取り組めたか。	A	○ほめほめチャレンジにより、自信をもって活動する姿が増えた。自己肯定感、自己有用感等を高めるため、継続していききたい。 ※素直さを生かし、自主性を高めていくことを視点とし、教育活動の見直しを行う。	

【体】心と体をきたえ 最後までやりぬく子	強い心と体づくり ・体育授業、体育的行事を通してめあてをもたせ、子どもの成長を促す取組 ・心の授業の実施	子どもたちは、自分の課題を受け止め、めあてをもって運動できたか。	A	○リレー集会や長縄跳び記録会などを経て、子どもたちが課題をもち、自主的に運動に取り組む姿が見られた。その中で、互いに協力し合い、尊重し合う集団としての高まりが見られた。 ○健康・安全の日をきっかけとし、日々の生活の中で、健康への意識を高めた。特に、新型コロナウイルス感染症の対策に取り組む中で、手洗いや換気等について、子ども同士で声を掛け合い取り組む姿が見られるようになった。 ○新型コロナウイルス感染症対策を行う中で、子どもたちの人権意識の向上について働き掛けた。いじめを廃絶するための取組を今後も続けていきたい。 ※コロナ禍で不安やストレスが、子どもたちの中に潜在している。これまで行ってきたつながり週間をはじめとした児童理解をさらに進め、子どもたちのさらなる安心を生み出していきたい。	○コロナ禍でも、楽しく学校に通えるようにしていることがありがたい。感染した児童へのケア、周囲への対応は、今後も引き続き行ってほしい。特に、コミュニケーションを大切にしてほしい。 ○行事を通して、集団生活の大切さ、集団の中での個のあり方を学ぶことができています。 ○子どもたちのストレスに対し、家庭ではできない部分について、学校で対応やフォローをしていきたい。引き続きよろしく頼みたい。 ○子ども一人一人を大切にしながら学校が目指す姿を実現しようとする姿勢を常に感じる。1人1台端末の活用、先の見えないコロナ対策など、変化が多い中でも青城のよさを生かし、時代に合わせて順応・対応していることに感謝する。
	健康管理の意識向上 ・健康・安全の日を利用した呼び掛け	子どもたちは、自分の心と体に関心をもち、健康に生活できたか。	A		

学校関係者評価を受けてのまとめ

○子どもたちの実態をもとに、大切にしたい点を職員で共通理解して指導にあたるとともに、便りやホームページ等により保護者や地域に情報を提供していくことの大切さを改めて感じた。「素直さを生かして主体性を育む」ことを次年度にも継続して取り組んでいきたい。

○新たに取り入れた対話タイムが効果的であったため、高く評価していただいた。始業式や終業式での発表の場や、朝の会や帰りの会での発表の場も含め、継続して取り組み、豊かに表現できる子を育てていきたい。

○コロナ禍において子ども一人一人の状態を常につかみ、家庭と協力して安心して学べる環境を整えていきたい。また、1人1台端末などのICT機器を効果的に活用し、学びを充実させていく必要がある。一人の子どもも取り残されることがないように、丁寧な指導を行っていきたい。

○コミュニティ・スクールの充実により、掃除ボランティア、花壇ボランティア、そろばんボランティア、ミシンボランティア等、様々な方が学校の教育活動に協力してくださっている。これらの力を大事にしつつ、家庭や地域との連携を密にし、家庭や地域と学校が一体となって成長していけるような取組を行っていきたい。